

ドイツ語の擬音語は、 どこまで日本語母語話者に理解できるか？

2016年7月31日（日）学習院大学オープンキャンパス模擬講義

場所：西5号館3階301教室 時間：10時45分～11時30分

ドイツ語圏文化学科 岡本順治

目次

1. 擬音語とは何か？

1.1 擬音語の定義

1.2 擬音語研究の意義

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較

2.1 全体的な違い

2.2 いくつかの例

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験

4. まとめ

1. 擬音語とは何か？ > 1.1 擬音語の定義（日本語）

ぎおん-ご【擬音語】⇒ぎせい-ご【擬声語】

《名》物音や動物の声を言語音で象徴的に表した語。「バタバタ」「ザアザア」「ワンワン」「ニャアニャア」など。語例のように、カタカナで書く傾向が強い。擬音語。写声語。オノマトペ。⇒擬態語

ぎたい-ご【擬態語】

《名》事物の状態や身ぶりを、いかにもそれらしい言語音で象徴的に表した語。「きらきら」「ぴかぴか」「つるつる」「のそのそ」「にっこり」など。語例のように、ひらがなで書く傾向が強い。オノマトペ。▷広義の擬声語の一種とすることもある。

出典：北原保雄（編）(2012)『明鏡国語辞典』

1. 擬音語とは何か？ > 1.1 擬音語の定義（日本語、英語）

オノマトペ [onomatopée フランス]

《名》擬声語および擬態語。オノマトペア。

出典：北原保雄（編）(2012)『明鏡国語辞典』

onomatopoeia /ˌɒnəˈmætəpiːə/ (名) 1. 擬音、擬声；擬音 [声] 語、オノマトペ 《◆たとえば bang（ボタン）、buzz（ブーン）、crash（ガチャン）、hiss（シュー）、hoot（ホーホー）、moo（モウモウ）、neigh（ヒヒーン）、whoosh（ヒュー）など》

出典：小西友七、南出康世（編）(2011)『ジーニアス英和大辞典』

1. 擬音語とは何か？ > 1.1 擬音語の定義（英語）

onomatopoeia /,ɒnə(ʊ)mətəˈpi:ə/ ► [mass noun]

the formation of a word from a sound associated with what is named (e.g. *cuckoo*, *sizzle*).

■ the use of onomatopoeia for literary effect.

— ORIGIN late 16th cent.: via late Latin from Greek *onomatopoiia* 'word-making', from *onoma*, *onomat-* 'name' + *-poios* 'making' (from *poiein* 'to make').

Stevenson (ed.) (2010) *Oxford Dictionary of English*.

1. 擬音語とは何か？ > 1.1 擬音語の定義（ドイツ語）

Laut·ma·le·rei die (Sprachw.): Wiedergabe natürlicher Geräusche o. Ä. durch klanglich ähnliche sprachliche Laute; Klangmalerei.

Laut: 声、Malerei: 絵画 ⇒ 「音で描かれた絵」

Ono·ma·to·pö·ie die (Sprachw.) Lautmalerei.

Ono·ma·to·po·e·ti·kon, Ono·ma·to·po·e·ti·kum das (Sprachw.) klangnachahmendes, lautmalendes Wort.

Dudenredaktion (2000) *Duden - Das große Wörterbuch der deutschen Sprache.*

1. 擬音語とは何か？ > 1.1 擬音語の定義

今回の話では、

「擬音語」を「擬声語」と「擬態語」の上位概念として用いる。

「擬態語」に関しては、扱わない。

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

「言語記号は『恣意的』である」というソシュールの考え方に反するのが擬音語である。

フェルディナン・ド・ソシュール(Ferdinand de Saussure; 1857-1913) --- 現代言語学の基礎を作ったスイスの言語学者、記号学者

言語は、記号でできた体系。

言語記号は、「音」という形式と「意味」という内容のペアでできている。

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

「言語記号は『恣意的』である」というソシュールの考え方に反するのが擬音語である。

- 言語は、記号でできた体系。
- 言語記号は、「音」という形式と「意味」という内容のペアでできている。
- **この「音」と「意味」の結び付きに、必然性はない（恣意的）。**

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

「言語記号は『恣意的』である」というソシユールの考え方に反するのが擬音語である。

- この「音」と「意味」の結び付きに、必然性はない（恣意的）。




猫[nεko] , cat [kæt]

Katze [kátʂə] , chat [ʃa] , etc.

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

「言語記号は『恣意的』である」というソシユールの考え方に反するのが擬音語である。

●さまざまな言語の擬音語を比較すると、「音」と「意味」の結び付きに、ある程度規則性があるように思える。例) 猫の鳴き声 ⇒ 



猫 --- にゃあ[nja:], にゃーお[nja:o],

cat --- miaow, meow [miáʊ, mjáʊ], mew[mjú:]

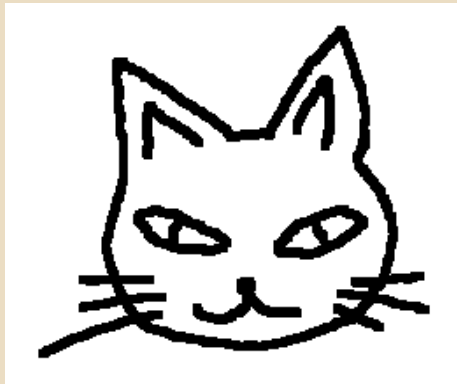
Katze --- miau [miáʊ], miauen [miáʊən]

chat --- miaou [mjau], miauler [mjole]

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

●さまざまな言語の擬音語を比較すると、「音」と「意味」の結び付きに、ある程度規則性があるように思えるが、無いように見えることもある。

★猫が喜んで(?)のどを鳴らす時の音 ⇒ 



日本語 --- ごろごろ [gorogoro]

英語 --- purr [pʌɹ]

ドイツ語 --- schnurren [ʃnʊʀən]

フランス語 --- ronron [ʁɔ̃ʁɔ̃]

1. 擬音語とは何か？ > 1.2 擬音語研究の意義

では、どう考えたらよいか？

- 「音」という形式と「意味」という内容のペアの一部は、その成立時に動機づけがある。

(通常、その動機づけは時の経過とともに忘れられるが、擬音語の場合には、比較的容易にその動機づけに遡って追体験できる)

- 音声の知覚（聴覚認知）は、母語の音体系に依存している。
小谷ほか (1993)

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.1 全体的な違い

●日本語の擬音語は、促音、撥音、「り」の共起、母音の長音化、音節の反復といった音韻的特徴がある。田守 (1993a: 12)

例) **がんがん きゅっ ぽたり かーっ くっくっ**

●日本語の擬音語は、典型的には副詞として用いられる（様態、結果、程度）。田守 (1993b: 18-42) 例) **わんわん鳴く ガリガリに瘦せる めっきり減った**

●日本語では、「清音」と「濁音」の区別が、一定のイメージを作っている。
例) **バタバタ vs. パタパタ**

●ドイツ語の擬音語は、その多くが動詞である。

例) **wimmern (めそめそ泣く)**

●動詞の中には、様態が含まれている。例) **trampeln (どたどたと歩く)**

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例



(1) には、「**ゴオオッ**」
という工場の操業音が、
(2)には「**キィィィン**」
という低空飛行する航空
機の騒音が擬音で表現さ
れている。さて、ドイツ
語ではどう訳されたか？

久住昌之原作、谷口ジロー作画 『孤独のグルメ』のドイツ語版より

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例



工場の操業音

「ゴオオッ」

⇒ Klong Klong Klong

低空飛行する航空機

「キイイイン」

⇒ Wuiiiiiii

これらの擬音は即席で作られたもの。

久住昌之原作、谷口ジロー作画『孤独のグルメ』のドイツ語版より

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(1) 僕は何かいわなければまずいのかと思い、

「はあ、英語をやってもアメリカの鉱石をほりに行くわけにはいきませんが、軍隊も南洋の方へ行くようですし、あちらは錫（すず）なんかも出ますし、どうでしょう、このさい、英語はやめて、マレー語をやったら」

「ば、ばかもの。そんなことはお前がきめることじゃない！お前だけ一人のこって立っとれ」

英語の先生は真赤になって怒り、他の先生はげらげら笑った。

水木しげる (1978:58) 『ほんまにオレはアホやろか』

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(2) よく木が土人の形をしていて、思わず十分ばかり、たちどまったりしたが、ついに山の中の中にいけることができたと思心していると、前の方に**カサ、カサ**という音。

こんどは本当だと、思っていると、 **「フーウ」「フーウ」**

という呼吸の音なんかもきこえる。こりゃあ、いよいよ最後だ、きっと竹やりをもった土人が、ぼくをみつけたのだと思って、思わず冷アセが体中にでる。三十分くらい対決していると、心臓が**ドキドキ**したりして、だんだん苦しくなる。

ちょうど、短剣をもっていたので、「ボーイ」といって、剣をまえにだした。

「ブブーッ」というブタの声。三十分も対決していたのは、ブタだったのである。

水木しげる (1978:94-95) 『ほんまにオレはアホやろか』

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(3) Während ich noch die beiden toten Tiere betrachtete, hörte ich plötzlich hinter mir **das Brüllen** einer Kuh und Luchs' aufgeregtes **Bellen**. Es riß mich herum, und da teilte sich das Unterholz, und heraus schritt, gefolgt von dem aufgeregten Hund, eine **brüllende** und lebendige Kuh.

Marlen Haushofer (1968/2016: 39) *Die Wand*.

<https://www.youtube.com/user/diewandderfilm>

(Die Wand - Der Film | YouTube)

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(3) Ich hörte plötzlich hinter mir **das Brüllen** einer Kuh und Luchs' aufgeregtes **Bellen**.

(3) 和訳：私には自分の後ろに突然、牝牛の**唸り声**とルクス*の興奮した**鳴き声**が聞こえた。

Marlen Haushofer (1968/2016: 39) *Die Wand*.

* 注：ここでのルクス(Luchs)は、犬の名前。

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

brüllen 自 (子供などが) 大声でわめく ; (動物が) うなる、ほえる ; (大砲・雷などが) とどろく 『独和大辞典』

(von bestimmten Tieren) einen dumpfen, durchdringenden Laut ausstoßen. *Duden Deutsches Universalwörterbuch.*

〔(特定の動物の) 鈍い、貫き通るような声を出す〕

例) Rind (牛), Kuh (牝牛), Stier (牡牛), Vieh (家畜), Löwe (ライオン)

bellen 自 (犬などが) ほえる ; (比) (砲・雷が) とどろく ; (人が) 激しくせきこむ ; がみがみ言う 『独和大辞典』

(von Hund u. Fuchs) wiederholt kurze, kräftige Laute von sich geben. *Duden Deutsches Universalwörterbuch.*

〔(犬とキツネの) 繰り返される短い、力強い声を出す〕 cf. wau, wau (Kinderspr., Interj.)

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(4) Schon hatten wir Mitte August; der kurze Bergsommer würde bald dahin sein. Es regnete noch zwei Tage, und das Gewitter **murrte** noch immer ganz leise in der Ferne.

Marlen Haushofer (1968/2016: 129) *Die Wand*.

2. 日本語とドイツ語の擬音語比較 > 2.2 いくつかの例

(4) Das Gewitter **murrte** noch immer ganz leise in der Ferne.

murren 自動 1. (gegen jn/et⁴) (...にむかって) ぶつぶつ文句を言う 2. (雷・砲声などが) ゴロゴロ鳴る、低くうなる 『独和大辞典』

seine Unzufriedenheit, Auflehnung mit brummender Stimme u. unfreundlichen Worten zum Ausdruck bringen; *Duden Deutsches Universalwörterbuch.*

〔自分の不満、反抗をぶつぶつという声と不愛想な言葉で表現する。〕

⇒(4) の和訳：雷雨は、まだとても小さい音で遠くで**ゴロゴロ**鳴っていた。


3. ドイツ語の擬音語を当てる実験

- ◆ 10個のドイツ語の動詞が並べてある用紙を配布します。後で、下の (a) から (t) までの選択肢から、適切と思うものを選んでもらいますので、まず最初に (a) から (t) までの選択肢に目を通して下さい。
- ◆ 選択肢全体に目を通したことを確認した後で、こちらで1つ1つ動詞を発音します。1つの動詞を2回ゆっくり発音します。その後、およそ10秒待ちますので、選択肢の中から適切と思ったものを選んで、記入して下さい。
- ◆ 10題すべて終わったら、そこで1番目の動詞から1つ1つ解説します。
- ◆ 用紙は持ち帰って結構です。

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(1) krähen

(c) 雄鶏が鳴く声

- ◆ 雄鶏（おんどり）は、ドイツ語では der Hahn
- ◆ ただし、直接的に鳴き声を模倣した擬音語もある  Kikeriki
- ◆ 雌鶏は die Henne, ひよこは das Küken
- ◆ Krähe は「（中型の）カラス（鴉）」で、鳴く時は krächzen

Die Krähe krächzt. （カラスが、○△○△鳴いている。）

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(2) prusten

(h) 激しく息を吐く時に出る音

Atemluft mit dem Geräusch des Sprudeln, Blasens od. Schnaubens
heftig ausstoßen.

〔猛烈な早口でしゃべったり、息を吐いたり、荒い息づかいをしたりする時の音を伴い、呼気を激しく出す〕

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(3) spritzen

(o) ホースで液体を吹きつける時にする音

durch Druck in Form eines Strahls aus einer engen Öffnung, einer Düse o.Ä.
hervorschießen, hervortreten (u. irgendwohin gelangen) lassen.

〔圧力をかけて噴射の形である狭い口や、噴射口などから勢いよく外に
だす（どこかへ到達させる）〕

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(4) blöken

(e) 羊が鳴く声

- ◆ 羊（ヒツジ）は、ドイツ語では das Schaf
- ◆ blöken するのは、ドイツ語では das Schaf の他に das Rind（牛）も。
- ◆ 英語では、bleat とか、baa

We heard the sheep bleating/baaing.

Baa baa black sheep, have you any wool, ...

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(5) schwappen

(j) 液体が容器にぶつかってこぼれる時の音

(von Flüssigem) sich in etw. hin u. her bewegen, überfließen [u. dabei ein klatschendes Geräusch verursachen]

〔（液状のものが）あるものの中であっちこっちへ動き、こぼれ出す（そして、その際、ぴしゃぴしゃ音を立てる）〕

schwappen するもの：die Lauge（溶液）、der Kaffee（コーヒー）、das Bier（ビール）など

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(6) knacken

(f) 何かが折れた時にでる短く硬く明るい音

einen kurzen, harten, hellen Ton von sich geben.

〔短く硬く明るい音を出す〕

knacken するもの： das Holzscheit（まき）、 der Knochen（骨）、
der Fußboden（床）、 das Radio（ラジオ）、 das Telefon（電話）、
das Bett（ベッド）、 der Finger（指）、 ...

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(7) trappeln

(k) 子供が短い歩幅で足をせわしなく動かして歩く時に聞こえる音

mit kleinen, schnellen u. hörbaren Schritten gehen

[小さく、速く、そして聞こえるような足音で歩く]

Hinter ihm trappelten die Kinder. (彼の後ろで、子供たちがちょこちょこ歩いていた。)

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(8) murmeln

(s) 低い声で不明瞭に言う時の音

mit gedämpfter Stimme [in tiefer Tonlage], meist nicht sehr deutlich etw. sagen, was oft nicht für andere bestimmt ist.

〔抑えた声で（低い音で）、たいていはあまり明瞭ではないように言う、

それはしばしば、他の人のために発せられていることばではない〕

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(9) gurren

(a) ハトが鳴く声

(von der Taube) kehlige, dumpfe, weich rollende, lang gezogene Töne in bestimmten Abständen von sich geben

〔（ハトが）喉から発し、にぶく、やわらかく転がるようで、長く続く音を特定の時間の幅で出す〕

鳩（ハト）はドイツ語で、die Taube

ハトは、ドイツ語では、gurren の他にも、girren, rucksen と鳴く。

3. ドイツ語の擬音語を当てる実験：解説

(10) rauschen

(m) 風や小川が流れる時の音

ein gleichmäßiges, anhaltendes dumpfes Geräusch hören lassen (wie das Laub von Bäumen, wenn es sich im Wind stark bewegt).

〔均等で、持続的な弱い音をたてる（それは、風の中で動いて木々の葉っぱがたてるような音）〕

rauschen するもの： das Meer（大海）, der Wald（森）, der Bach（小川）, der Wind（風）, die Seide des Kleides（ドレスの絹）, ...

4. まとめ

- ◆ 擬音語は、自然音を言語音でまねたものである。
- ◆ 世界のさまざまな言語で（かなりの程度）共通したイメージをもつ言語音がある。
例) [k] : 硬い感じの音、/r/ や // のような流音 : 流れる音 ; 継続 ; 繰り返し
- ◆ 個別言語で独特なニュアンスを添えられた言語音がある。
例) ヒツジは「メーメー」、ドイツ語では blöken 英語では、bleat とか baa
- ◆ すでに定着してしまい擬音性が薄れてしまっているものと、即席で作られまだ定着していない擬音語がある。
例) 日本語 : 「どんぶり」、ドイツ語 bellen ((犬が) 吠える)、英語 bark

参考文献

梶原成海 (2015) 『[p] と [b] の音を含む日独のオノマトペ表現の比較』 学習院大学ドイツ語圏文化学科卒業研究。

小谷学、恒本均、福田洋司、松本治弥 「言語による音声知覚の相違とオノマトペ」 笥 寿雄, 田守育啓 (編) 『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』 勁草書房、219-244.

田守育啓 (1993a) 「日本語のオノマトペの音韻形態」 笥 寿雄, 田守育啓 (編) 『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』 勁草書房、1-16.

田守育啓 (1993b) 「日本語オノマトペの統語範疇」 笥 寿雄, 田守育啓 (編) 『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』 勁草書房、17-75.

参考文献 (主な言語データの出典)

Dudenredaktion (2000) *Duden - Das große Wörterbuch der deutschen Sprache*. Mannheim: Dudenverlag.

Dudenredaktion (2007) *Duden - Deutsches Universalwörterbuch*. Mannheim: Dudenverlag.

Haushofer, Marlen (1968/2016) *Die Wand*. Berlin: Ullstein.

北原保雄 (編) (2012) 『明鏡国語辞典』 大修館書店.

久住昌之原作、谷口ジロー作画 (2008) 『孤独のグルメ』 新装版 扶桑社.

Kusumi, Masayuki/ Taniguchi, Jiro (2014): *Der Gourmet: von der Kunst allein zu geniessen*. (übersetzt von John Schmitt-Weigand) Hamburg: Carlsen.

小西 友七、南出 康世 (編) (2011) 『ジーニアス英和大辞典』 大修館書店.

水木しげる (1978) 『ほんまにオレはアホやろか』 新潮文庫 み-31-1 新潮社.

Stevenson (ed.) (2010) *Oxford Dictionary of English*. Oxford: Oxford Univ. Press.